

### 板橋区、生息数少ないと閉館

板橋区が5月に閉館を決めた「ホタル生息環境館」（同区高島平）で、110匹以上のホタルの生息が確認されたことが10日分かった。区は1月に実施した調査から「推定個体数は23匹」と発表。生息数が少ないことを、施設の老朽化とともに閉館の理由にしていた。同館で飼育に関わったボランティアらは、区の調査がずさんだったと指摘している。

（牛田久美）

区は6月からホタルを捕獲し、産卵箱で飼育して閉館後の譲渡先を探している。区環境課によると、今月7日時点で捕獲したホタルの累計数は、ガラスハウス内で94匹、屋外の水路で16匹の計110匹。このうち、区の調査結果でゼロと発表していたヘイケボタルは48匹だった。区サイトで捕獲数を公表してきたが、32匹を確認した6月16日から更新を中断した。

今月9日夜には超党派の区議14人が視察。館内では捕獲していないホタルが光を放ち、区議からは「区はもういないと言っているが、実際にはいるではないか」との声が上がったという。ヘイケボタルは今月

## ホタル館で110匹確認



葉の上に多数のホタルが確認された（6月撮影、区民提供）

ピークを迎えるため、生息数はさらに増えたとみられる。同館の存廃をめぐる区は、毎夏、就業訓練の大学生と孵化幼虫を数え、館内9カ所での生息数を記録したボランティアは「区の推定数を上回り、調査手法に問題があったのは明らか」と指摘していた。

一方、区は「調査方法自体は最良の方法だった。廃止の方針に変更はない」とし、31日に高島平区民館で説明会を開く。

同館の存廃をめぐる区は、1月、「生息数を把握し、引き継ぎを円滑にするため」として抜き打ちで調査を実施。サンプリングで2匹を確認し、この数から推定個体数を23匹として閉館の理由にしていた。

これに対し、ボランティアらは調査の様子を撮った動画などを公開するなど、手法に疑問を投げかけていた。